

質問コーナー

当院のホームページに寄せられたメールでの
問い合わせ（質問）にお答えするコーナーです



Q. 病院で腰椎すべり症と診断され、その前の病院では腰部脊柱管狭窄症と診断されました。同じ病気なのか悪化したのか、違いはなんでしょうか？症状は長時間歩くとおしりから足のしびれと痛みですが、腰痛はさほどありません。

A. 腰椎すべり症には、加齢変化で起きるすべり症と若年期の疲労骨折が原因と考えられている分離すべり症があります。いずれも腰の骨と骨のずれが生じ脊柱管が狭くなり狭窄症を起こし、神経を圧迫し下肢のしびれや痛みを出します。つまり、すべり症は脊柱管狭窄症に含まれる病気です。すべり症以外に骨の変形（変形性腰椎症）や靭帯が骨化（黄色靭帯骨化症）、腰椎椎間板ヘルニアが混在して腰部脊柱管狭窄症となることもあります。

Q. 膝前十字靭帯損傷の診断を受けたのですが、手術の必要はないと言われました。放っておくとどうなりますか？

A. スポーツや仕事で膝を使う方は手術の適応がありますが、放置していても運動や作業で小走りなどの直線的な動作であれば日常生活にも支障がないことも多いため、年齢や活動性によっては保存的に治療は可能です。しかし、膝のゆるみが残ることで関節内のクッション材である軟骨や半月板の摩耗が加速し、将来的に加齢現象（変形性膝関節症）が進むことが予想されますので、筋力を落とさないようケアが必要です。